

その他 Q-07

耐火仕様

細径の打込み鉋

合成スラブ用デッキプレートと梁との接合に、細径の打込み鉋（径 3.0～4.0mm）を使用する際の注意点を教えて下さい。

その他 A-07

細径の打込み鉋については、「構造-Q21」に示す通り、仮設接合の位置付けでデッキプレートと梁との接合に用いることができます。注意点としては以下の通りです。

デッキ合成スラブの耐火認定では、工法としてデッキプレートと梁との接合についても記載されております。構成材料として複数の仕様が存在する場合は、構造耐力上最も不利となるであろう仕様で性能評価試験を行います。これまでの合成スラブ工業会加盟企業の試験仕様では、デッキ合成スラブと梁の接合が頭付スタッドの場合、すべてアークスポット溶接で接合しています。

このアークスポット溶接は、デッキプレート敷設時のずれ止め用であり、耐火性能に影響を及ぼさないと考えられています。そのため、溶接棒や溶接径、強度などについて特に規定はありません。

耐火認定においては、試験体に用いた構成材料に対して、耐火性能上不利とならないものについては、認定範囲に含まれることとなります。接合強度が通常のアークスポット溶接の耐力を上回る焼抜き栓溶接、打込み鉋、すみ肉溶接、ボルト接合なども、耐火性能上不利とはならないため、無被覆耐火構造の認定に適用できると考えられます。（例として、デッキ合成スラブと梁の接合が頭付スタッドで、デッキプレートと梁の接合が焼抜き栓溶接で施工した場合、耐火認定上は特に問題ないと判断できます。）

合成スラブ工業会加盟企業が個別で取得している耐火認定への細径の打込み鉋の適用可否については、各メーカーへご確認ください。

その他、「構造-Q21」にも記載した通り、細径の打込み鉋を用いる場合は、梁端への施工範囲は注意が必要です。（詳細は、別途鉋メーカーにご確認ください。）

また、採用にあたっては、設計者および工事監理者と十分に協議の上、採用の可否を判断してください。